



TITLE:

京大広報 No. 488

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 488. 京大広報 1995, 488: 992-1001

ISSUE DATE:

1995-06-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209146>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 488

京都大学広報委員会



外国人留学生歓迎パーティー —関連記事本文993ページ—

目 次

＜大学の動き＞	訃報..... 997
ボローニャ大学との学術交流..... 993	日誌..... 999
全学共通科目の専用電子掲示板システムが完成... 993	＜随想＞
外国人留学生歓迎パーティー..... 993	古の学者と今の学者
＜紹介＞	名誉教授 藤 縄 謙 三...1000
総合人間学部基礎科学科情報科学論講座人間情	＜コラム＞
報論分野—社会・言語・認知：新しい人間科	源氏物語と日本刀
学の創造をめざして..... 995	一世にかくれ無き独創性—
—京都大学の百年（第10回）—	新 宮 秀 夫...1001
瀧川文庫にある京大（瀧川）事件関係記事の	
スクラップブック..... 996	

<大学の動き>

ボローニャ大学との学術交流

本学とイタリア共和国ボローニャ大学との「学術交流に関する一般的覚書」が平成7年4月25日に交換された。

同大学との学術交流の推進については、国際交流委員会の答申（関連記事『京大広報』No. 363）

にそって検討が進められ、平成元年1月に協定候補校とされた。その後、同大学と協議を重ね、このたび「覚書」を締結することとなったものである。

ボローニャ大学は、11世紀に創立された人文・社会科学系および自然科学系の各分野をもつ総合大学である。なお、教員数は約2,000人、学生数は約90,000人である。

全学共通科目の専用電子掲示板システムが完成

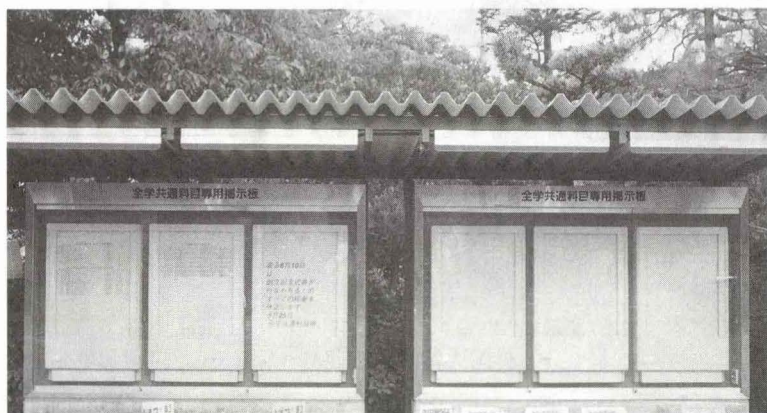
本システムは、4年（6年）一貫教育の実施に伴い、各学部学生に全学共通科目の休講、補講等の授業に関する情報を通知するため、各構内6か所に設置した電子掲示板により情報を提供するものである。

総合人間学部構内、北部構内については、既に、平成6年4月から運用を開始していたが、本年5月に、本部構内2か所（附属図書館前、工学部8号館前）、医学部構内、薬学部構内にも電子掲示板が完成し、各構内でのシステム運用が開始された。

システムの概要は、総合人間学部の事務室に設置されたワークステーションを使用して入力された各種情報が、

KUINS を介して各構内に設置された電子掲示板へ表示されるものである。情報の入力については、休講、補講、試験、教室変更、授業時間変更等がメニュー形式により簡便に行えるほか、スキャナー読み取りによる画像の入力も可能になっている。

これにより、全学共通科目にかかる種々の情報が、迅速かつ正確に伝達できることになった。



総合人間学部構内の全学共通科目専用電子掲示板

外国人留学生歓迎パーティー

平成7年度入学外国人留学生歓迎パーティーが、5月30日（火）午後6時から京大会館において外国人留学生、総長および指導教官等約220名が出席して行われた。

パーティーは、井村総長の挨拶ではじまり、瀬地山学生部長の発声による乾杯、新入留学生のスピーチなどを交え、終始なごやかな雰囲気のうち午後8時すぎ閉会した。

なお、平成7年5月1日現在の本学の国（地域）別外国人留学生数は別紙のとおりである。

国（地域）別外国人留学生数調

平成7年5月1日現在

	国（地域）名	学部	大学院		研究生等	計		国（地域）名	学部	大学院		研究生等	計
			修士	博士						修士	博士		
ア ジ ア 州 (21)	バングラデシュ		3	7	2	12	ヨ ー ロ ッ パ 州 (21)	デンマーク			1	1	2
	中国	51	68	113	99	331		フィンランド			1		1
	インド		1	2	2	5		フランス	1	1		3	5
	インドネシア	1	20	19	3	43		ドイツ			2	10	12
	イラン			1		1		ギリシャ		1	1	1	3
	イスラエル			1	2	3		アイスランド				1	1
	ヨルダン				1	1		アイルランド			1		1
	韓国	3	27	95	45	170		イタリア			1	4	5
	マレーシア	15	4	2		21		リトアニア			1		1
	モンゴル		1	3	1	5		オランダ			1	1	2
	ミャンマー		2	6	1	9		ノルウェー				1	1
	ネパール		1			1		ポーランド				2	2
	パキスタン		2	3	1	6		ルーマニア	1				1
	フィリピン	4	7	7		18		スベイン		1	1	2	4
	サウジアラビア				1	1		イギリス		2		6	8
大洋州 (2)	シンガポール	4		1	1	6	NIS諸国 (5)	ユーゴスラビア			1	1	2
	タイ	3	11	7	6	27		グルジア			1		1
	トルコ			2	2	4		カザフスタン			1		1
	ベトナム	1	3	1	1	6		キルギス				1	1
	香港	1		2		3		ロシア		1	5	2	8
	台湾	1	20	26	22	69		ウクライナ		1		1	2
	オーストラリア	4	1	1	4	10		カナダ	1	2		3	6
	ニュージーランド	1	1		2	4		コスタリカ				1	1
								ドミニカ		1			1
								ジャマイカ				1	1
ア フ リ カ 州 (10)	カメルーン				1	1	北 ア メ リ カ 州 (8)	メキシコ		1	2		3
	コートジボワール				1	1		ニカラグア			1		1
	エジプト			5	2	7		トリニダード・トバゴ			1		1
	エチオピア			1		1		アメリカ		3	6	20	29
	ガーナ			1		1		アルゼンチン	2	1			3
	ケニア		1	1		2		ブラジル	1	1	4	3	9
	マリ			1		1		チリ		2	1		3
	モロッコ	1		1		2		コロンビア			1	1	2
ヨーロッパ 州 (21)	スーダン			1	2	3	南 ア メ リ カ 州 (7)	パラグアイ				1	1
	タンザニア		1	3	1	5		ベールー		2		1	3
	アルバニア			1		1		ベネズエラ			1		1
	オーストリア			1	1	2							
	ベルギー		1		1	2							
	ブルガリア			1	3	4	計 (74か国)		96	195	353	277	921
	チェコ			2	1	3							

(注) 1. 国（地域）名は通称による。

2. 国名の並べ方、国および主な地域の各大陸別分類は、国連発行「統計年鑑」（NIS 諸国を除く）による。

(学生部)

<紹介>

総合人間学部基礎科学科情報科学論講座人間情報論分野

—社会・言語・認知：新しい人間科学の創造をめざして—

総合人間学部基礎科学科情報科学論講座に本拠をおく「人間情報論分野」は、人の認識のプロセスを従来の心理学、言語科学を初めとする様々な社会・認知科学の理論と手法を用いて探求することを目指して創設された。従来の学問分類から言えば、心理学と言語学が母体となっている。この分野の目指すものは「社会、言語、認知」のキーワードにまとめることができる。すなわち、社会と認知が言語を媒体にして相互に形成、維持しあうその動的様態の実証的解明を目標としている。具体的には以下に示すテーマが含まれる。

グループ・ダイナミックス

家族、サークルといった小集団、企業や学校のような組織、興奮のつぼと化した群衆、そして一つの国、あるいはそれ以上の広がりを持つ社会、等々。このような集団をめぐって展開されるダイナミックなドラマを科学の立場から研究する分野がグループ・ダイナミックスである。特に、個々人の行動の集積として、集団全体の特性がどのように形成されていくのか、また、集団全体の影響を受けて、個々人の行動がどのように変化していくのかというグループと個人の相互規定性についての理論的・実証的研究を行っている。

文化・社会心理学

このテーマを一口で言えば、文化と心理プロセスの相互形成過程ということになる。個人の思考・感情・動機づけといった心理プロセスは、対人関係、文化的慣習、社会組織等の社会的、かつ文化的プロセスの中に組み込まれることにより、その機能を得、同時に、社会的、文化的プロセスは、そのようにして機能する個々人の集合体により維持され、変革されると考えられる。このような人の心理と社会的プロセスのダイナミックな相互作用を実証的に扱うために、異文化間の比較研

究、地震災害などの様々な社会現象を対象にした実地調査、さらには実験室実験などを行っている。

言語と認知

言語は、日常生活における伝達的手段としてだけでなく、人間の思考や推論・判断・知覚のメカニズムを理解していくための手がかりとしても重要な役割を担っている。このテーマでは、特に情報科学的視点から言語の諸相を研究している。日常言語の音声はどのような単位から構成されているか。言葉の意味はどのような概念によって特徴づけられているのか。あるいは、そこでの文脈の役割は何かなど、言葉の諸相にかかわる問題を言語学の一部門である音声学、形態論、意味論などの枠組みから実証的に研究している。

認知心理学

人間の脳は最も高度な情報処理装置である。人体に隠されたこの小宇宙とも言える脳は一体どのような情報処理機構を持っているのだろうか。われわれは、心理学、情報科学、神経科学的視点から、主として認知過程の情報処理機構としての脳、すなわち感覚から認知に至る次のような処理機構を研究している：(1)感覚器官による情報入力機構、(2)感覚・知覚形成の情報処理機構、(3)学習の情報処理機構、(4)記憶の情報処理機構、(5)認知の情報処理機構。

発達心理学

発達心理学という学問領域は、これまで誕生した乳児の個体としてのその後の成長を跡づけ、その身体的、心的な機能の獲得の過程を解明する学と考えられてきた。しかし、言うまでもなく、乳児は一人で成長を遂げるわけではない。人間の子どもは、生まれ落ちたときから、人々との関係の

中で、社会的、文化的、歴史的に制約された存在として成長していく。しかもその過程は決して平坦ではない。一方では、認識能力を高め、観念的、対人関係の世界を限りなく拡大していきながら、他方では同時に、つまずきや落ち込み、苦悩

と葛藤を増幅していかざるを得ないような危ういみちのりである。この分野では、「人間が発達する」ということの意味を追い求めて行くことを究極の目的としている。

(総合人間学部)

—京都大学の百年（第10回）—

瀧川文庫にある京大（瀧川）事件関係記事のスクラップブック

瀧川幸辰の旧蔵資料から成る瀧川文庫の中に、1933（昭和8）年4月から1934年5月に至る間の京大（瀧川）事件関係の新聞・雑誌の切り抜きや電報などの貼ってある、4冊のスクラップブックがある。第1冊目の最初のページには、1933年4月15日付『京都日出新聞』夕刊の「法学生の教材 突如、発禁となる」という記事と、大畑書店よりの発禁を伝える電報「トクホン イマハツキンナツタフミスル」が貼ってある（トクホンは『刑法読本』のことである）。電報の宛名は「ヤマシナマチヒノオカ二ハタキカワコウシン」で、受信局の日付は昭和8年4月11日である。ちなみに、瀧川文庫にある瀧川幸辰の名刺の裏面には、YUKITOKI TAKIKAWA とあるから、通常タキガワと発音される姓は、タキカワと読むのが正しいようである。大畑書店からの電報としては、第4冊目にも同年9月6日付受信局印のある「マタハツキンナツタオオハタ」というものがある。

新聞（英字新聞もある）の切り抜きの部分は今日図書館でみることでできるものが多いが、『婦人の友』（『婦人之友』カ）1933年9月号の「盛夏より新秋へ」という文章（口述筆記なのかもしれない）や、瀧川夫妻の写真、春雄さん（16歳）、万理子さん（14歳）、栄子さん（12歳）は海へ行っておられなかったので写真に入っただけなかったという旨の——瀧川家の家族構成がわかる——編集部の文章は、従来あまり知られていないものである。瀧川はここで「私は十年このかた、職務の都合で秋の一ヶ月を東京で送って居たため、京都の秋を楽しんだことがないのです。今年の秋は名実共に、あらゆる拘束から離れましたので、秋の京都を満喫したい心組です。……思へば大学教授は責任の重い職業でした。新秋の気を一杯吸込んで、新しい学究生活にはいりませう」と述べている。他にも、『朝日グラフ』の風刺画が貼ってあるページもあり、その絵をみると、小西総長と鳩山文相が瀧川教授を双方から引き合っていて、真中に、「崇徳院 瀬を早み 岩にせかるゝ瀧川の われても末に あわんとぞ思ふ」と書いてある。

研究者が大きな関心を寄せるのは、瀧川の書き込みがないか、ということである。とくに自己の心情を吐露したり、従来知られていなかった事実が書き込まれていないか調べてみたが、残念ながらそのような書き込みはないようである。ただ、1933年6月9日付『大阪朝日新聞』の「瀧川元教授がマルキシズムとは意外 伊藤学生部長の非公式説明を宮本法学部長反駁」という記事の、法学部長の反駁文に書き込みがある。すなわち、法学部長が瀧川教授の学説を説明した後、「苟も刑法学者と名のつけられるほどの人は殆んど右のやうな見地から観察したものにすぎない、要するに文部省の理由とするところは今学界において認められてゐる学的見地を誹謗するものにほな（ママ）らない」と述べたという箇所ので、「殆んど……要するに」の部分全体が線で囲まれ、「殆んど」の次に「例外なく」と書き込みがしてある外、余白に以下のように書かれている。「殆んど例外なく右の様な見地から観察してゐるのであつ

て、学界に於て既に異存のない所である。要するに」(これも、全体が線で囲まれている)。

瀧川はまた様々な部分に主として赤で傍線と(縦書きの文章の上に)横線を引いている。全てを紹介できないので、興味深い部分をみてみよう。1933年5月13日付『大阪朝日新聞』の京大某有力教授談の「総長が具上せねば免官は出来ない」というタイトルとその記事の部分、5月23日付『東京朝日新聞』の「総長を無視して処分強行はできぬ 東大法学部教授 美濃部博士談」という見出しの部分、5月26日付『大阪毎日新聞』硯滴欄の文章中、分限委員会の顔触れをみると、「歯医者が眼病を診断せんとするに似たらずや」の部分などである。

なお、このスクラップブックには、宮本英脩の同年8月3日付の手紙も貼ってある。これは印刷されており、多くの知人に届けられたものと思われる。その冒頭の部分に次のような文章がある。「拝啓……七月十一日付をもつて願に依り京都帝国大学教授の職を免ぜられることになりました……目下私は近々唯今の住所において弁護士を開業する手筈を急いで居ります……」。このスクラップブックは、京大(瀧川)事件研究者にとってまことに貴重な資料であるといえよう。

(百年史編集委員会 宮本 盛太郎)

訃 報

福 山 敏 男 名誉教授

本学名誉教授 福山敏男 先生は、5月20日逝去された。享年90。

先生は、昭和2年京都帝国大学工学部建築学科を卒業、内務省造神宮使庁嘱託、東京文化財研究所美術部長などを経て、同34年京都大学工学部教授に就任、同43年停年により退官された。昭和63年京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和43年4月から同53年3月まで西日本工業大学教授を務められ、同56年から財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長の要職にあった。

先生は、建築史学を中心に歴史学や考古学、美術史学などの広い分野において類稀な成果をあげられた。主な著書に『日本建築史の研究』や『福山敏男著作集』全6巻などがある。

こうした功績により、昭和47年に朝日賞、同55年に日本建築学会大賞、同62年に恩賜賞・日本学士院賞、京都府文化賞特別功労賞を受けられ、同63年に日本建築学会名誉会員、平成2年に日本学士院会員となられた。

これら一連の研究教育や社会活動により、昭和

50年4月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(工学部)

宮 崎 市 定 名誉教授

本学名誉教授 宮崎市定 先生は、5月24日逝去された。享年93。

先生は、大正14年京都帝国大学文学部を卒業、第六高等学校、第三高等学校各教授、京都帝国大学文学部助教授を経て、昭和19年教授に就任、東洋史学第2講座、のち第1講座を担当された。昭和40年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和25年9月から同26年9月まで文学部長、同34年11月から同35年10月までは教養部長として、大学の管理運営に貢献された。本学退官後は、自宅で研究と執筆活動を続けられた。

先生の研究としては、中国清朝の雍正帝の評伝や、科举、九品官人法など、中国制度史の研究がよく知られている。しかしこれらは先生の研究の一部をなすものにすぎず、先生は、中国史、アジア史、東西交渉史、日本古代史など広範な分野で

卓越した業績を残された。先生の膨大な業績は『宮崎市定全集』全24巻別巻1にまとめられている。

東洋史研究会会長を40年近く務められたほか、アジア協会（パリ）名誉会員、東方学会顧問、西南アジア研究会副会長などを務められ、また、パリ大学、ハーヴァード大学、ハンブルグ大学等にも客員教授として出講された。

これら一連の研究教育活動、学会活動により、昭和33年日本学士院賞、同53年フランス学士院ジュリアン賞、同58年京都府文化賞特別功労賞を受賞され、平成元年には文化功労者になられた。また、昭和46年には勲二等旭日重光章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（文学部）

平岡 武夫 名誉教授

本学名誉教授 平岡武夫 先生は、5月31日逝去された。享年85。

先生は、昭和8年に京都帝国大学文学部を卒業、同文学部副手、第三高等学校講師、東方文化研究所研究員、京都大学人文科学研究所研究員、同助教授を経て、同35年に教授に就任し、中国思想史部門を担当された。昭和48年に、停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和46年4月より退官までの間、附属図書館長、ついで評議員を併任され、大学の管理運営に貢献された。

本学退官の後、昭和48年4月から同54年12月まで、日本大学文理学部教授を務められた。

先生は、中国古代思想史、中でも経学の歴史に関する研究において優れた業績を残された。また本研究所で組織された白居易（楽天）をめぐる研究班など共同研究においても大きな成果を挙げられ、その間に編纂された『唐代研究のしおり』全16冊は、現在も学界に裨益するところが大きい。主な著書に、『経書の成立』、『経書の伝統』など

がある。

また、東方学会、日本中国学会などにおいて、評議員、理事の要職を歴任された。昭和58年には、日本学士院会員になられた。これら一連の研究教育活動、学界活動により、昭和56年11月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（人文科学研究所）

福島徳壽郎 名誉教授

本学名誉教授 福島徳壽郎 先生は、6月3日逝去された。享年72。

先生は、昭和24年京都大学法学部を卒業、同大学法学部助手に採用、同28年1月神戸商科大学助教授、同32年4月京都大学法学部助教授を経て、同37年5月教授に就任、政治学講座を担当された。同61年3月停年により退官され京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和51年10月22日から同53年10月21日まで法学部長として大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、昭和61年4月から今日まで奈良産業大学法学部教授を務められた。

先生は、政治学、なかでも現代の国家構造に関する研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、海外の研究動向の精力的な紹介という点においても政治学に多大な貢献をされた。主な著書に、『現代独裁制についての若干の考察』、『講義政治学』等がある。

また、文部省法学・政治学視学委員、日本政治学会理事等を歴任された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（法学研究科）

日 誌

(1995年5月1日～5月31日)

5月9日 臨時評議会

◇ 平成7年度京都大学職員研修語学研修（英語・初級コース）第1日（7月14日まで毎週火・金曜日 総40時間）

15日 京都大学春秋講義 月曜講義 第1日（以後の日程は、22日、29日、6月5日、12日）

16日 評議会

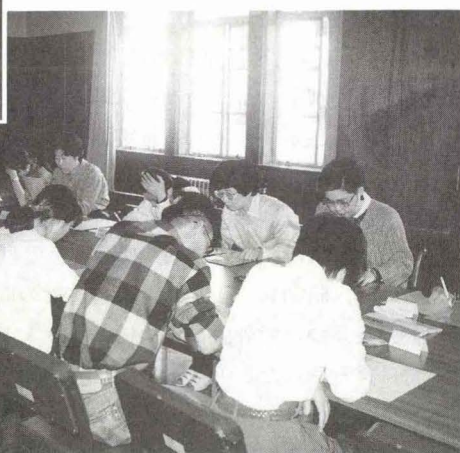
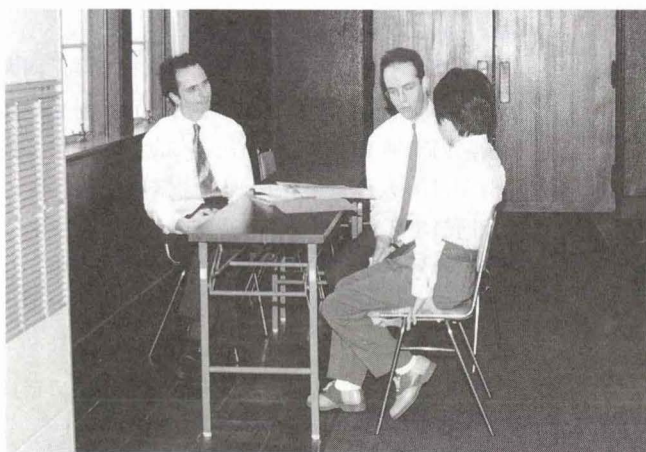
17日 国際交流委員会

◇ 京都大学春秋講義 水曜講義 第1日（以後の日程は、24日、31日、6月7日、14日）

23日 学位授与式

30日 評議会

◇ 大学院審議会



平成7年度京都大学
職員研修語学研修
（英語・初級コース）

<コラム>

洛書

「エネルギーと環境とが21世紀、人類の最大課題であることは良く判りましたが、ご提案の新研究科（大学院のこと）では“独創的”人材を育てる目的でどんな新しい手段をお考えでしょうか？」と文部省の係官に質問されて、一瞬たじろいだ。

世界的な発明・発見、たとえば文字、鉄、紙、火薬、印刷術、コンピュータなどに関して我々のご先祖様や同僚で、「世にかくれ無き」

独創性を示した人がいる

だろうか？京都に戻って

色々と考えていて思い出

したのが、「世界で最初

の小説（novel）は源氏物

語である」というニュー

ズウィーク（昨年11月14日号）の小さな記事である。ノーベル文学賞を貰った位でも国中大騒ぎになる事を考えると、世界で初めて小説を書いた、などと言うことは、もう脳震盪の起こりそうな、驚天動地の偉業である。さっそく西部キャンパスの生協書籍で文庫本6冊、54帖解説付きを買った。叙事詩や説話や日記では無く、現実社会に模して、全くの虚構でありながら事実よりも鮮やかに人間や社会の真実を表現したものが小説であるとする、やはりこの記事は本当らしい。別に聞いたところでは西欧で小説の元祖というと“源氏”より500年程も遅

「エネルギーと環境とが21世紀、人類の最大課題で

れてやっとセルバンテスやラブレーとなるそうである。

筆者にとって“思わぬ”分野で「世にかくれ無き」独創性の証拠が現れたので、工学の分野でもと踏ん張り、思いあぐねてたどり着いたのが日本刀である。これもまた、ちょうど源氏物語が書かれた頃に製法が確立したと見られる。

専門（冶金学）の立場から見て、温度計も顕微鏡も結晶学の知識も全く無しに最適の焼入れをしたり、今はやりのフラクタルと呼ばれる自己相似超微細構造（幾ら微細な部分をとってもマ

クロな構造と相似的な構造を持つ）を繰り返し鍛造によって作るなど、世界中に刀の種類多しと言えども、日本刀はもう全く「世にかくれ無き」断

源氏物語と日本刀

—世にかくれ無き独創性—

新 宮 秀 夫

トツの最高級品である。

とは言っても今の世の中では刀は既に博物館入りの代物であり、小説には敵わない。日本国はどうも天照大神以来、女性がパワフルな社会である。ちなみに昨今のスポーツ界を見ても世界のトッププロなどという女性が多いようである。次の機会には、「エネルギー問題の独創的解決のために新大学院では女子学生の活力をより積極的に生かしたい」と答えるつもりでいる。

（しんぐう ひでお 工学部教授）